

令和4年度 全国学力・学習状況調査 葉山町の結果について（小・中学校）

葉山町教育委員会

目 次

1 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 集計児童・生徒及び学校数（葉山町立小・中学校関係）
- (4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

2 小学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
 - ア 全体の傾向
 - イ 国語
 - ウ 算数
 - エ 理科
- (2) 児童質問紙に関する調査の結果
 - ア 教科等に関わる内容について
 - イ 学びに向かう力に関わる内容について
（向上心・主体性・規範意識等）
 - ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について
 - エ ICTを活用した学習状況等について



3 中学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
 - ア 全体の傾向
 - イ 国語
 - ウ 数学
 - エ 理科
- (2) 生徒質問紙に関する調査の結果
 - ア 教科等に関わる内容について
 - イ 学びに向かう力に関わる内容について
（向上心・主体性・規範意識等）
 - ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について
 - エ ICTを活用した学習状況等について

1 調査の概要

令和4年4月19日に実施した「令和4年度 全国学力・学習状況調査」について、葉山町立小・中学校の児童・生徒の学力等の状況は、概ね次のとおりです。

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(出典：令和４年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領[文部科学省])

(2) 調査の方式

悉皆調査（対象は小学校第6学年、中学校第3学年）

【参考】 *平成19年度～平成21年度：悉皆調査

*平成22年度～平成24年度：抽出調査（※平成23年度は震災で中止）

*平成25年度～令和4年度：悉皆調査（※令和2年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休校で中止）

(3) 集計児童・生徒及び学校数(葉山町立小・中学校関係)

○集計児童・生徒数

※4月19日に調査を実施した児童・生徒数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	325	69, 996	965, 761
中学校	262	61, 439	892, 585

○集計学校数

※4月19日に調査を実施した公立学校数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	4	854	18, 671
中学校	2	420	9, 348

※児童・生徒数及び学校数ともに、小学校は特別支援学校小学部、義務教育学校(前期)、中学校は中等教育学校(前期)、特別支援学校中学部、義務教育学校(後期)を含む。

(4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

○本調査の結果から読み取れることに関して、次のような点に留意する必要がある。

・実施教科が小学校が国語、算数、理科の３教科、中学校が国語、数学、理科の３教科であり、学習指導要領の全てを網羅するものではないことから、児童・生徒が身につけるべき学力の特定の一部であること。

・年度により問題の質が異なるため、学力の向上・低下の傾向を正答率のみで容易に評価することは難しいこと。

(用語説明)

○国語、算数、数学、理科ごとの平均正答率は、それぞれの教科の平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。

○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答した児童・生徒数を全体の児童・生徒数で割った値の百分率。

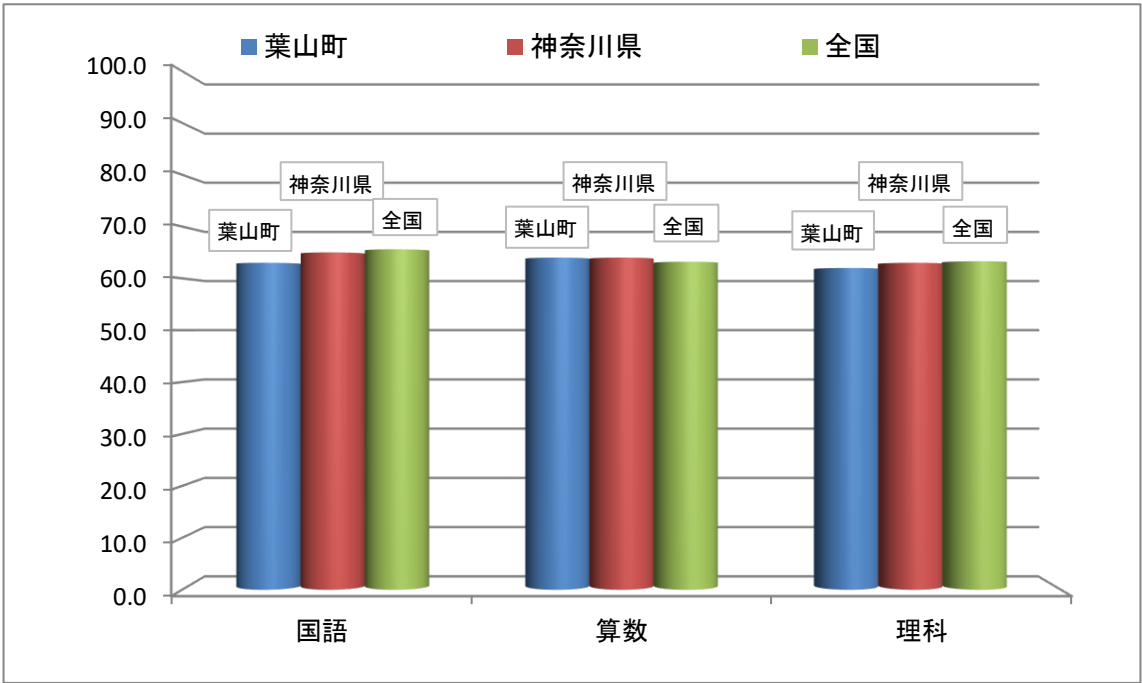
2 小学校に関する調査結果の概要

(1)教科に関する調査の結果

ア 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	63.0	65.0	65.6
算数	64.0	64.0	63.2
理科	62.0	63.0	63.3



- ・国語、算数、理科の調査結果ともに、全国・県の平均正答率±5%の範囲内であるため、全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。

イ 国語

結果の概要	・「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の領域における多くの問題で、全国・県とほぼ同程度の平均正答率であるが、「言語の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」の領域においては、全国・県を下回っている。 ・「言語の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、多くの問題で無回答率が全国・県を上回っている。
話すこと 聞くこと	・「話すこと」「聞くこと」のいずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えていることはできている。しかし、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。
書くこと	・「書くこと」のいずれの問題も全国・県の平均正答率を下回っており、課題があると考えられる。 ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。
読むこと	・「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」問題について、全国・県の平均正答率を大きく上回り、よくできたと考えられる。 ・「表現の効果を考える」問題については、全国・県の平均正答率と同程度である。
言葉の特徴や 使い方に関する事項	・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題では、全国・県の平均正答率を大きく下回っており、無回答率においては、他の問題に比べ高く、課題があると考えられる。 ・「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」問題では、全国・県の平均正答率と同程度である。
我が国の 言語文化に関する事項	・「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」問題では、全国・県の平均正答率を大きく下回っている。また、無回答率は上回っており、課題があると考えられる。

今後の 取組の重点	○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。 ・話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気付くことができるように、振り返りの場面などで自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設定する。 ・話し合いを始める際に話合いの目的や方向性を検討すること、話合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどが重要である。 ・書く相手や目的に応じて自分が書いた文章を読み直し、整えることができるように指導することが大切である。その際、読み手にとって分かりやすい文章にしたり、自分の伝えたいことをより明確にしたりすることを意識し、推敲する必要性を感じるができるようにする。 ・伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりすることを指導する。自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりすることができるように指導する。 ・登場人物の行動や気持ちを捉えることが必要となる言語活動を設定し、物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることができるように指導する。また、児童が複数の叙述に着目することができるように、捉えたことと基にした叙述について交流する活動を設定する。 ・表現の効果を考えることができるようにするために、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読むことを指導する。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うために、同じ読み方の漢字や同じつくりのある漢字を、日記や振り返りを書かせる中で指導する。
--------------	--

ウ 算数

結果の概要	・ どの領域や観点についても、全国・県とほぼ同程度の平均正答率である。
数と計算	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 被乗数に空位のある整数の乗法の計算や、示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述することはできている。示された日常の事象における場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題が見られる。
図形	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 図形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかどうかをみるために、正しいプログラムを選んだり、正しいプログラムに書き直したりすることで回答する問題は、全国・県と同程度の平均正答率である。しかし、無答率が全国・県平均を上回っている。
変化と関係	・ 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題の正答率は、全国・県の平均正答率を上回っている。その他の問題は、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 日常生活の場面に即して、数量（飲み物の量）が変わっても割合（飲み物の濃さ）は変わらないことを理解することに課題が見られる。
データの活用	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 表の各欄と合計欄の意味を理解してある項目に当たる数を求めることはできている。分類整理されたデータをもとに目的に応じてデータの特徴を捉え考察することや、目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題がある。
今後の取組の重点	○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。 ・ 日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるように指導することが重要である。その際、概算にする方法（切り上げ、切り捨て、四捨五入）が適切であるかどうかを判断できるように指導することが大切である。 ・ 図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考える際には、定規やコンパスを用いた作図も、コンピュータを用いた作図も、どちらも手順にしたがって作図できるように指導する必要がある。その際、用いる道具の特徴を踏まえて作図の手順を考え、コンピュータを用いた場合は、プログラムの一部を変えることで、いろいろな正多角形を作図できるというよさを実感し、発展的に考察できるよう指導することが大切である。 ・ 日常の場面に対応させながら割合について理解することができるよう指導することが重要である。その際、飲み物を分けても、飲み物の濃さは変わらない等、生活経験を想起できるようにすることが大切である。 ・ 目的に応じて、複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を捉え、必要な情報を読み取ることができるようになることが重要である。その際、目的に応じて異なる観点や立場から多面的に考察し、グラフを選んだ根拠について説明したり、グラフから情報を読み取ったりすることができるよう指導することが大切である。

エ 理科

結果の概要	・ どの領域についても、全国・県とほぼ同程度の平均正答率である。
「エネルギー」を柱とする領域	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 実験で得た結果を、分析して解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を導き出すことに課題がある。
「粒子（物質）」を柱とする領域	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度ではあるが、メスシリンダーという器具を理解し、正しく扱うことについては、全国・県の平均正答率を下回っている。 ・ 自然の事物・現象から得た情報を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、適切な問題を見いだし記述することに課題がある。
「生命」を柱とする領域	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができている。
「地球」を柱とする領域	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 天気と気温の変化を観察した結果を、分析して解釈し、問題に正対した結論を導きだすことはできている。提示された資料から数量、変化の大きさなどを分析して解釈し、自分の考えをもつことには課題がある。
今後の取組の重点	○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。 ・ 観察、実験などで得た結果について分析して解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようになるために、結果の具体的な数値やそれを分析した内容などを根拠として考察・表現する場面を設定する。 ・ 目的に応じて器具や機器を選択し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようになるために、どの器具や機器を使用するとよいかについて操作の手順と併せて考えられるように指導することが重要である。 ・ 自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定する。 ・ 提示された資料から数量、変化の大きさなどの特徴を読み取り、自分の考えを表現できるようにするために、観察・実験などで得た結果などから結論を導きだすのに必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらについて話し合う場面を設定する。

(2)児童質問紙に関する調査の結果

＜抽出項目について＞

「葉山町学びづくり研究推進事業」で取り組んでいる内容に深く関連している項目(「教科等」、「学びに向かう力」、「家庭学習・生活習慣」、「ICTの活用」)に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。なお、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、主に小・中共通の設問を抽出し分析しています。

ア 教科等に関わる内容について ※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	国語の勉強は好きですか	56.6	59.9	59.2
②	国語の勉強は大切だと思いますか	92.2	93.9	93.3
③	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.3	85.0	84.0
④	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	88.9	92.0	91.8
⑤	算数の勉強は好きですか	63.1	63.1	62.5
⑥	算数の勉強は大切だと思いますか	92.6	94.3	94.2
⑦	算数の授業の内容はよく分かりますか	80.5	81.1	81.2
⑧	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	62.3	70.6	69.3
⑨	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	82.7	80.3	80.4
⑩	理科の勉強は好きですか	67.5	79.7	79.7
⑪	理科の勉強は大切だと思いますか	80.8	86.0	86.5
⑫	理科の授業の内容はよく分かりますか	83.9	89.0	88.5
⑬	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	70.3	80.0	78.0
⑭	理科の授業では、観察や実験の結果からどのようなことが分かったのか考えていますか	83.6	85.8	84.9
⑮	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	83.0	78.9	80.0
⑯	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	83.9	73.7	72.7

成果と課題 及び 改善点	多くの児童が学ぶことの大切さを理解し、意欲をもって学習に取り組んでいることが推測される。多くの設問において全国・県と同様の回答率だったが、⑧・⑩・⑬の設問の回答率は全国・県より10ポイント近く低い。教科を好きになるためには、「わかる」「できる」授業を心がけることが大切である。インクルーシブ教育の視点を取り入れながら、全ての児童が楽しく、わかる、できるようにする授業づくりの工夫を心がけていきたい。 一方で、⑮・⑯の設問では、全国・県を上回る高い値を示している。「特別の教科 道徳」や「総合的な学習の時間」を校内研究の中心として取り組んで指導の工夫・改善に努めたり、話し合い活動や表現活動を重視したりしてきた成果であると推測される。
--------------------	--

イ 学びに向かう力に關わる内容について（向上心・主体性・規範意識等）

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか	87.0	79.7	79.3
②	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	90.1	85.7	87.1
③	将来の夢や目標を持っていますか	76.1	77.6	79.8
④	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか	73.7	71.5	72.5
⑤	人が困っているときは、進んで助けていますか	90.1	88.9	88.9
⑥	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.2	94.9	95.1
⑦	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.5	96.6	96.8
⑧	学校に行くのは楽しいと思いますか	86.4	85.3	85.4
⑨	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	73.7	75.0	73.5
⑩	友達と協力するのは楽しいと思いますか	95.3	94.2	94.0
⑪	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	54.5	51.4	51.3
⑫	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	76.7	78.8	77.3
⑬	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	75.2	67.6	65.4
⑭	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	77.7	73.9	72.2
⑮	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	85.8	80.2	80.1
⑯	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	82.4	78.0	78.2
⑰	解答時間は十分でしたか（国語） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	51.7	59.1	66.0
⑱	解答時間は十分でしたか（算数） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	77.5	82.6	83.4
⑲	解答時間は十分でしたか（理科） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	90.1	91.2	90.8

成果と課題 及び 改善点	自己肯定感、規範意識、思いやりに関連する設問では全国・県よりも高い回答率を示している。特に①の設問では昨年度よりも7ポイント近く高い数値を示しており、素直に自分のよさを認められる児童が多いことがうかがわれる。今後も達成感や自己肯定感を感じることができるよう、学校生活のあらゆる場面で、一人ひとりが活躍できるような機会や場面を意図的につくるようにしていきたい。また、学校に行くのが楽しい、友達と協力するのが楽しい、人の役に立つ人間になりたいという設問では、全国と同程度の回答率を示しており、このような前向きな思いを児童がもち続けられるように見守り、励ましていくことも大切である。 ⑬・⑭の回答率から自分の考えが伝わるように工夫して発表したり、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめたりする活動によく取り組んでいることがわかる。一方、⑰の国語の解答時間については約半数の児童が不十分と回答しており、限られた時間の中で必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめて表現する力を育てていけるようにしていきたい。
--------------------	---

ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	95.4	94.3	94.4
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	84.2	80.1	81.5
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.1	89.4	90.4
④	学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く 「30分以上」と回答した割合	49.9	36.4	36.4
⑤	読書は好きですか	78.4	71.3	73.1
⑥	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	76.5	70.7	71.1
⑦	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合	54.8	57.9	59.4
⑧	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合	53.2	54.0	56.1
⑨	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか	76.5	64.6	65.1

成果と課題 及び 改善点	本年度も昨年度に引き続き、朝食の喫食率や就寝・起床など、基本的な生活習慣については良い傾向を示している。家庭での学習については、引き続き計画的に取り組めるように学校と家庭との連携を図り、定着させていくことが大切である。 ④・⑤の読書に関する設問では、全国・県を大きく上回る値を示しており、各校における委員会活動やPTA活動の協力等による読書活動推進の成果の表れであると推測される。 また、⑨の設問においても全国・県を上回る値を示しており、自然豊かな葉山において児童がのびのびと育っているとともに、恵まれた環境において自然を生かした様々な教育活動が展開されていることがうかがわれる。
--------------------	--

エ ICTを活用した学習状況等について

(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか ※「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した割合の合計	73.3	73.1	71.5
②	普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか ※2時間以上と回答した割合	48.4	49.6	50.2
③	普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、SNSや動画視聴などをしますか ※2時間以上と回答した割合	26.3	32.6	32.5
④	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	94.7	86.7	83.2
⑤	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。 ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	92.5	80.6	76.1
⑥	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。 ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	77.4	56.8	49.4
⑦	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。 ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	70.0	51.7	45.2

成果と課題 及び 改善点	昨年度より、1人1台のタブレット端末の活用が本格的に始まったことにより、授業におけるICT機器使用に関する今年度の回答率が昨年度よりも飛躍的に増加している。特に、④の設問については昨年度より約76%も増加している。また、⑤・⑥・⑦の回答率が全国・県よりも大きく上回っており、授業中に調べる場面、友達と意見を交換する場面、発表する場面など様々な学習場面において、ICT機器の積極的な活用が図られていることがわかる。 引き続き、児童の資質・能力の育成のための一つの手立てとしてICTを効果的に活用していきたい。
--------------------	--

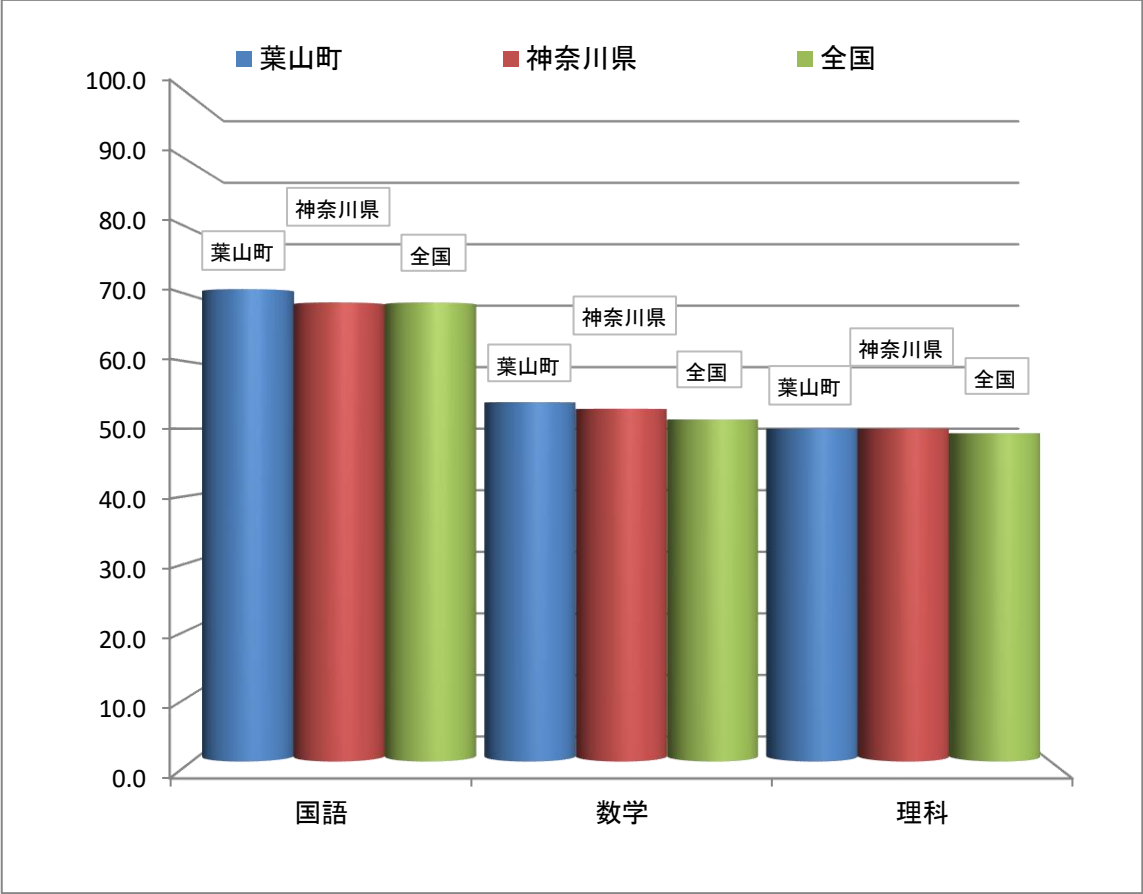
3 中学校に関する調査結果の概要

(1)教科に関する調査の結果

ア 全体の傾向

【平均正答率 ％】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	71.0	69.0	69.0
数学	54.0	53.0	51.4
理科	50.0	50.0	49.3



・ 国語、数学、理科の調査結果ともに、全国・県の平均正答率± 5 %範囲内であるため、全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。

イ 国語

結果の概要	・ どの領域においても、全国・県と同程度の正答率である。平成31年度【小学校】国語で出された問題と関連して出題された「情報の扱い方に関する事項」では、全国平均正答率より下回っており、根拠を明確にするための適切な引用の仕方の理解については課題があると考えられる。
話すこと 聞くこと	・ 「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」問題では、全国・県の平均正答率をおよそ5 %上回っている。また「意図を明確にして話し方の工夫を具体的に考える」問題についても、全国・県の平均正答率と同程度である。
書くこと	・ 「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書く」問題の平均正答率は、全国・県より下回っており、課題があると考えられる。
読むこと	・ いずれの問題の平均正答率も、全国・県の平均正答率に比べ上回っていることから、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができていると考えられる。
言葉の特徴や 使い方に 関する事項	・ 「助動詞の動きについて理解し、文章の中で意図的に使うこと」はできているが、「文脈に即して漢字を正しく書くこと」は問題によって全国・県の平均正答率より下回っており課題がある。
情報の扱い方 に関する事項	・ 引用の仕方や出典の示し方について理解し、各活動の中で使うことに課題がある。
我が国の 言語文化に 関する事項	・ 「行書の特徴を理解する」問題の平均正答率は、全国・県の平均正答率を5 %以上上回っており、よくできている。漢字の行書の読みやすい書き方や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について理解することは、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 本区分が、最終問題だった為か、区分の特性が理由か、無回答率は全国・県と比較するとやや高い。

今後の 取組の重点	○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。 ・ 根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題があることから、自分の考えが伝わる文章を書くには、根拠を明確にすることが大切であり、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことができるように指導することが重要である。その際、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなどが考えられることを理解し、引用の仕方や出典の示し方の知識を生かして書くことができるように指導することが大切である。 ・ 引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、言語活動の中で使うことができるようにすることが必要である。そのために、本や資料から文章や図表などを引用する必要がある言語活動の中で、引用の際には引用箇所をかぎかっこ（「 」）でくくることが、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認するとともに、引用する目的や効果について考えるように指導することが大切である。 ・ 漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。文章の中ばかりではなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識させるようにしたり、実際に各活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養ったり、必要に応じて辞書を引くことを習慣づけたりすることが有効である。
--------------	---

ウ 数学

結果の概要	・ 令和３年度から学習指導要領に新設された「データの活用」の領域は、全国・県の平均正答率を上回っている。その他の領域や観点については、全国・県とほぼ同程度の平均正答率である。
数と式	・ 問題場面における考察の対象を明確に捉える問題の正答率は、全国の平均正答率を上回っている。その他の問題は、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 結論（「同じ２つの偶数」や「差が４である偶数の和」は、４の倍数になる）が成り立つことの前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明することに課題がある。
図形	・ 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかを問う問題は、全国の平均正答率を上回っている。反例の意味を理解しているかを問う問題は、全国・県の平均正答率を下回っている。 ・ 反例の意味を理解したり、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。
関数	・ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題は、全国・県の平均正答率を上回っている。与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題は、全国・県の平均正答率を下回っている。 ・ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに課題がある。
データの活用	・ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題や、箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題は、全国・県の平均正答率を上回っている。

今後の取組の重点	○課題の改善に向けて、次のような取組が考えられる。 ・ すでに成り立つことが示された事柄（差が４である２つの偶数の和は、４の倍数になる）を基に、前提を変えても成り立つ場面（差が８である２つの偶数の和は、４の倍数になる）を考え、話し合う活動を取り入れることが考えられる。その際、成り立つ事柄を予想するために、具体例をあげて調べたり、既に正しいと認めた文字式を用いた説明を読んで考えたりする場面を設定することが大切である。 ・ 命題がいくつかの場面から推測した事柄について考察する場面では、命題や事柄が常に成り立つことを説明するだけでなく、常に成り立つとは限らないことも説明できるようにすることが大切である。 ・ 結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、事柄が成り立つ理由について数学的に説明できるよう指導することが大切である。その際、コンピュータを活用して、大きさや形をいろいろに変えた図形を観察し、成り立つと予想される図形の性質を見だし、それを他の生徒と共有するなどの活動も考えられる。 ・ 表やグラフと具体的な事象を対応させ、グラフ上の点が具体的な事象では何を表しているかを捉える活動を取り入れ、与えられた表やグラフを関連付けて、必要な情報を適切に読み取ることができるように指導することが大切である。
----------	--

エ 理科

結果の概要	・ どの領域についても、全国・県とほぼ同程度の平均正答率であるが、「生命」を柱とする領域では、全国・県の平均正答率をやや上回っている。
「エネルギー」を柱とする領域	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を説明することはできているが、矢印で表すことに課題がある。
「粒子」を柱とする領域	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度ではあるが、粒子の保存性に着目して化学変化に関わる水に質量が変化しないことを分析して解釈することについては、全国・県の平均正答率を下回っている。 ・ 状態変化に関する知識の概念的理解に課題がある。
「生命」を柱とする領域	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率を上回っている。 ・ 節足動物の外部形態について調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することができている。
「地球」を柱とする領域	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度ではあるが、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題では、全国・県の平均正答率を下回っている。 ・ 他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することに課題がある。

今後の取組の重点	○課題の改善に向けて、次のような取組が考えられる。 ・ 力の働きについて科学的に探究する上で、力は大きさと向きによって表されることや物体に働く２力のつり合いなど、目に見えない力を矢印で表して説明することは大切である。指導に当たっては、物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付けるようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、つり合いの関係を説明する学習場面を設定する。 ・ 化学変化を粒子の保存性に着目し、分析して解釈できるようにするために、水の電気分解などの化学変化を原子や分子のモデルで表す学習場面を設定し、化学変化に関係する原子の種類や数が変わらないことに気付けるようにする。 ・ 状態変化に関する知識を身近な現象で活用できる程度に概念等を理解できるようにするために、状態変化に関する知識と身近な現象を関連付けて探究する学習場면을繰り返し設定する。 ・ 地域にどのような岩石が分布しているかを調べ、身に付けた岩石に関する知識及び技能を活用して、化石が含まれる可能性の有無を判断する学習場面を設定する。 ・ 考察の根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善できるようにするために、他者の考察の根拠としている観測データの種類や科学的に探究する方法が妥当か検討する学習場面を設定する。その際、用いた観測データが自然の事物・現象と対応しているか、観測データの読み取りが適切であるかなどの視点を明示する。
----------	---

(2)生徒質問紙に関する調査の結果

＜抽出項目について＞

「葉山町学びづくり研究推進事業」で取り組んでいる内容に深く関連している項目（「教科等」、「学びに向かう力」、「家庭学習・生活習慣」、「ICTの活用」）に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。なお、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

ア 教科等に関わる内容について ※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	国語の勉強は好きですか	63.4	64.0	61.9
②	国語の勉強は大切だと思いますか	92.8	93.4	93.2
③	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.2	82.9	81.2
④	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	87.0	90.5	89.7
⑤	数学の勉強は好きですか	58.8	60.1	58.1
⑥	数学の勉強は大切だと思いますか	82.8	85.5	86.6
⑦	数学の授業の内容はよく分かりますか	70.6	78.4	76.2
⑧	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	35.9	48.5	47.3
⑨	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	71.8	75.4	75.2
⑩	理科の勉強は好きですか	63.7	64.2	66.4
⑪	理科の勉強は大切だと思いますか	71.4	74.5	76.8
⑫	理科の授業の内容はよく分かりますか	71.8	74.9	75.2
⑬	理科の授業では自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	62.5	65.7	64.5
⑭	理科の授業では観察や実験の結果をもとに考察していますか	76.7	81.6	78.9
⑮	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	88.5	83.3	85.5
⑯	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	71.7	74.5	72.1

課題と課題及び改善点	小学校同様、多くの生徒が学ぶことの大切さを理解し、意欲をもって学習に取り組んでいることが推測される。多くの設問において全国・県と同程度の回答率だったが、⑦・⑧の設問の回答率は全国・県より低い値となっている。学習意欲を高めるとともに探究心を育んでいくためにも、授業において、日常生活に即した学習課題を設定したり、考えを表現し、伝え合う活動を意図的に設けたりしていく。その際、自分の考えを伝えるだけでなく、友達の考えと比較して新たな考えを導き出したり、友達の考えを自分の言葉で説明したりできるように指導していくことも大切である。 一方、⑯の設問では、全国・県を上回る値を示している。県の人権教育推進校として研究を重ねたり、学校教育活動全体を通じて行う道徳教育に熱心に取り組んだりして指導の工夫・改善に努めてきた成果であると推測される。
------------	---

イ 学びに向かう力に關わる内容について（向上心・主体性・規範意識等）

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか	75.2	78.3	78.5
②	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	89.0	85.7	86.6
③	将来の夢や目標を持っていますか	66.4	64.8	67.3
④	難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか	56.5	64.8	67.1
⑤	人が困っているときは、進んで助けていますか	84.7	87.6	88.4
⑥	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.9	94.0	95.0
⑦	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	94.2	95.5	96.4
⑧	学校に行くのは楽しいと思いますか	76.4	83.4	82.9
⑨	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	72.6	77.1	76.9
⑩	友達と協力するのは楽しいと思いますか	91.9	93.3	93.7
⑪	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	46.9	38.4	40.7
⑫	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	79.8	79.9	79.2
⑬	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	79.0	70.7	63.3
⑭	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	69.4	69.1	67.4
⑮	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	85.5	76.7	78.9
⑯	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	71.4	74.9	74.7
⑰	解答時間は十分でしたか（国語） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	90.0	85.9	84.9
⑱	解答時間は十分でしたか（算数） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	67.8	74.3	71.0
⑲	解答時間は十分でしたか（理科） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	94.3	94.2	93.2

成果と課題 及び 改善点	小中学校ともに②の設問に対する回答率が全国・県よりも高いことから、児童生徒と教員とのよい信頼関係づくりができていると考えられる。①・⑧の設問の回答率が全国・県よりもやや低い値を示しているため、一人でも多くの生徒が達成感や自己肯定感を感じることができるよう、学校生活のあらゆる場面で、一人ひとりが活躍できるような機会や場面を意図的につくとともに、生徒一人ひとりを認め、自己肯定感を高めることで意欲の向上につなげていきたい。 昨年度に引き続き、⑪の設問の回答率が全国・県よりも高い値を示しており、日常より地域と連携してきた各中学校の取組の成果であると考えられる。今後も様々な教育活動において地域との連携を大切にしていきたい。また、⑬・⑮の設問も全国・県よりも高い値を示しており、表現活動や話し合い活動を重視してきた成果であると推測される。
--------------------	---

ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	90.9	90.9	91.9
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	75.9	76.3	79.9
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	89.3	90.0	92.2
④	学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く 「30分以上」と回答した割合	26.6	24.9	27.3
⑤	読書は好きですか	73.7	64.1	68.2
⑥	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	51.1	58.4	58.5
⑦	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合	69.0	73.2	69.5
⑧	土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合	67.5	69.4	70.8
⑨	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか	67.6	53.3	55.0

成果と課題 及び 改善点	本年度も昨年度に引き続き、基本的な生活習慣についてはほとんどの生徒が規則正しい生活を送っている様子が見えてくる。家庭での学習については、引き続き計画的に取り組めるように学校と家庭との連携を図り、定着させていくことが大切である。 ④・⑤の読書に関する設問では、読書好きな生徒が多く、全国・県を上回る値を示しており、各校における朝読書等の読書活動推進の成果の表れであると推測される。 また、小学校同様、⑨の設問においても全国・県を大きく上回る値を示しており、自然豊かな葉山において生徒がのびのびと育っているとともに、恵まれた環境において自然を生かした様々な教育活動が展開されていることがうかがわれる。
--------------------	--

エ ICTを活用した学習状況等について

(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか ※「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した割合の合計	77.1	72.8	69.5
②	普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか ※2時間以上と回答した割合	48.1	54.0	50.3
③	普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、SNSや動画視聴などをしますか ※2時間以上と回答した割合	54.2	58.1	52.0
④a	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	98.5	82.9	80.6
④b	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合の合計	79.0	22.0	21.6
⑤	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。 ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	96.5	76.0	71.7
⑥	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。 ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	81.4	43.3	43.5
⑦	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。 ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	63.3	33.8	35.3

成果と課題 及び 改善点	昨年度より1人1台のタブレット端末の活用が本格的に始まったことにより、授業におけるICT機器使用に関する今年度の回答率が昨年度よりも飛躍的に増加している。特に、④aの設問については昨年度より約64%も増加しており、④bのとおり「ほぼ毎日」と回答した割合は全国・県よりも57%も上回っている。また、小学校同様、⑤・⑥・⑦の回答率が全国・県よりも大きく上回っており、中学校においても授業中に調べる場面、友達と意見を交換する場面、発表する場面など様々な学習場面において、ICT機器の積極的な活用が見られていることがわかる。 引き続き、生徒の資質・能力の育成のための一つの手立てとしてICTを効果的に活用していきたい。
--------------------	--